

感染性胃腸炎では便が正常になるまで 登園できないの？

厚労省の『保育所における感染症対策ガイドライン』によると、ウイルス性胃腸炎の登園の目安は、「**嘔吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれるようになること**」となっています。ただし、登園の再開後もウイルスは便中に3週間以上排せつされることがあるため、排便後やオムツ交換後の手あらいを徹底するようにと記載されています。

このように**ウイルス性胃腸炎では症状が改善しても長期間ウイルスが便中に排せつされる**ことから、**軽度の下痢症状が続く場合**でも、集団生活を送れるレベルまで全身状態が回復すれば、**医師の判断により登園可能**と考えます。重要なことは、症状があれば適切に汚物(排泄物や嘔吐物)処理をすること、回復後もしくは排せつやオムツの処理の手洗いを徹底することです。

*「保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)」はインターネットからダウンロードできます。

11月の感染症情報

11月は発熱、咳、鼻水の普通感冒と感染性胃腸炎が流行の主体で、インフルエンザの発生はほとんどありませんでした。

～下痢の時のお尻のケア～

下痢でお尻が赤くかぶれた時は、ぬるめのシャワーで洗った後、ドライヤーで乾かして、タオルで優しく拭くようにしましょう。その後、便が直接皮膚に付かないように、**ワセリンやベビーオイルを塗って、お尻を保護**してあげてください。



シリーズ キッズケア・青い鳥がめざす保育 ⑧

～ 発達を学び、発達の一步前の活動を知ること、発達を促す保育を！～

小さい方なら分けてあげるよ。

2.3歳ごろ

～お兄ちゃん・お姉ちゃんになりたい～
(大きい自分)

「いただきます」するまで待てるよ。

「大きい・小さい」
「長い・短い」
「多い・少ない」
「高い・ひくい」など、
比較する言葉が分かるようになります。

身の回りことは自分でできることが増え、お兄ちゃん・お姉ちゃんになりたいという願いが出てきます。でも、やりたくてもできない、願いを認めてもらえない現実もあり、葛藤が生まれます。この葛藤は**大きい自分を実感し、他の人から認められることを積み重ね、しだいに乗り越えていきます**。子どもを「できる、できない」という視点ではなく「その子らしさ」を見つけ、認めてあげることが、**大きい自分を実感することにつながります**。

おいしいものを食べた時、「おいしいね」と伝えてあげましょう。お母さんが言うことで、感情を表す言葉を覚えていきます。

みんなの中に入るのは
はずかしいなあ

“発達子どもの
願いから始まる”
白石正久著より

次回は4歳頃をします。

11月のご利用状況

11月の利用延べ人数は81名、一日平均利用人数は4.1人でした。年齢別では、1歳児が44名(54%)で全体の半数を超えており、次いで2歳児の13名(16%)、4歳児の10名(12%)の順でした。疾患別では、急性上気道炎が33名で最も多く、次いで感染性胃腸炎の15名でした。その他、溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、アデノウイルス感染症による入室がありました。11月は目立った感染症がなく、普通感冒と思われる急性上気道炎が多かったようです。短期間に下熱するお子さんが多かったためかキャンセル率が36%と比較的高かったようです。